

## 文を包摂する名詞の形式的な特徴に関する考察

著者	泉 大輔
雑誌名	言語資源活用ワークショップ発表論文集
巻	4
ページ	2-14
発行年	2019
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00002549">http://doi.org/10.15084/00002549</a>

## 文を包摂する名詞の形式的な特徴に関する考察

泉 大輔（東京外国語大学大学院総合国際学研究所）<sup>†</sup>

### An Analysis of the Formal Characteristics of “Sentential Compound”

Daisuke Izumi (Tokyo University of Foreign Studies)

#### 要旨

本稿は文が名詞に直接先行する形式（「母さん助けて詐欺」「早く帰れオーラ」など）について、コーパスを用いて実例を収集し、その形式的な特徴を明らかにすることを目的とする。本稿で明らかになった形式的な特徴は、①当該の形式を形成する名詞は抽象的な概念（活動、言語、程度性など）を表す名詞であり、和語よりも造語力の高い漢語・外来語が多いこと、②名詞に先行する文には心情や印象が述べられた発話形式が多く、その発話形式は後部要素である抽象概念の内実を言語化したものであること、③文末のモダリティ形式によって後続しやすい名詞には差があること、④当該の形式は一般的な複合名詞の持つ意味構造と同様に、後部要素が類概念を表し、前部要素の発話形式がその類概念を特徴づける種差として機能するという意味構造を持つことである。

#### 1. 研究の目的と研究の背景

本稿の目的は、名詞が文に直接後続する形式（「母さん助けて詐欺」「ANA でハワイへ行こう！キャンペーン」「早く帰れオーラ」「へー、そうなんだ程度」「今すぐ辞めろ発言」「困ったな状態」など）について、コーパスを用いて収集した実例に基づき検討を行い、その形式的特徴を明らかにすることである。このような形式は、ブログ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)、商品名やイベント名、広告のキャッチコピー、日常会話などにおいて用例が多数観察される。

本稿で問題とする「今すぐ辞めろ発言」のような形式は、文が名詞に先行している点で一見したところ連体修飾構造のようにも見えるが、従来の連体修飾構造の形成規則に反する形式である。「今すぐ辞めろ発言」の場合、動詞の命令形（「辞めろ」）を述語とする文が、引用形式「という」などを介さずに名詞に直接先行している。しかし、通常の連体修飾構造では、修飾節の内部にモダリティ形式（動詞の命令形や意志形、終助詞、感動詞など）を含む場合、「今すぐ辞めろという発言」のように引用形式「という」などを介して名詞を修飾する必要がある（大島 2003）。この点で「今すぐ辞めろ発言」は従来の連体修飾構造を逸脱する形式であると言える。

当該の形式を複合語形成の観点から見ると、「句の包摂」<sup>2</sup>（影山 1993）の延長上にある現象ともとらえられる。すなわち、「今すぐ辞めろ発言」のような形式は、語の内部に「句」よりもさらに大きい単位である「文」（「今すぐ辞めろ」）が包み込まれている点で「文の包摂」と言えるような現象である。名詞「状態」の用法を記述した新屋（2014）でも同様に、名詞「状態」が「という」などを介さず発話を表す文に直接後続する形式（「「何だコリヤ??」状態」など）について、文を前項、「状態」を後項とする複合名詞として位置付けている。これに倣い、本稿では「今すぐ辞めろ発言」のような形式が、「複合名詞の前項が文の単位にまで拡大し、語の内部に文が包み込まれた形式」であるという立場をとる。以下、本稿で研究の対象とする形式を「語が文を包摂する形式」と呼ぶ。

<sup>†</sup> daisuke.izumi7@gmail.com

<sup>1</sup> 本稿における用例中に付した下線はすべて筆者による。

<sup>2</sup> 「[夏目漱石と正岡子規]展」「[カラオケとゲーム]大会」のような語の内部に句が包み込まれる現象のことである（影山 1993）。句を前項、語を後項とする複合語については、林（1983）および石井（2007）では「臨時一語」の用例として取り上げられている。

当該の形式に関する先行研究では、文を前項、「状態」を後項とする複合名詞の文法的・意味的な構造および表現効果が記述されているが(新屋 2014)、「状態」という名詞以外には、そもそものような名詞が当該の形式を形成するのか、その実相は明らかになっていない。したがって、当該の形式の形式的な特徴、意味・機能および表現効果などを明らかにし、その全体像を記述するうえでは、幅広く実態を観察する必要がある。そこで本稿では、大規模コーパスを用いた定量的な調査を行い、まずは当該の形式の形式的な特徴を明らかにする。なお、本稿では以下、当該の形式における文の部分の「前部要素」、文に後続する名詞を「後部要素」とする。

## 2. 研究の対象

本稿で研究の対象とする形式について、その前部要素には形式的にも意味的にも種々の文が見られる。以下では、本稿の研究対象となり得る 3 つのタイプについて述べる。第一に、以下の例(1)～(5)は、連体修飾構造の修飾節内部には生起しない形式<sup>3</sup>が文の内部に含まれており、連体修飾構造の形成規則を逸脱しているタイプである。したがって、本稿で取り上げる「語が文を包摂する形式」と判断できる用例である。なお、前部要素が鉤括弧(「」)に囲まれている用例と囲まれていない用例があるが、本稿では両者を区別せず、どちらも「語が文を包摂する形式」とみなす。

### (1) <鳥取県が実施する小中学校の教育施策について>

「勉強がんばろうキャンペーン」は、子どもたち自身と子どもたちを支える家庭・地域・学校に発信するものです。  
(『とりネット／鳥取県公式ホームページ』<sup>4</sup>)

### (2) <女性専用車両に居座った男性が乗客から非難を受けた騒ぎに関するニュース>

「降りろ」コール<sup>5</sup>の大合唱。女性専用車両が一時騒然となりました。  
(フジテレビ『めざましテレビ』2018年2月28日放送)

### (3) <次回のトライアスロンのレースに向けた水泳の練習にて>

そんな泳ぎに変えるのじゃー。名付けて「みんな来年の俺を見たらビックリするぞ作戦」。ということで今日は体の動きと使うべき筋肉を意識した練習。  
(ブログ『ホノルルマラソンに出るから』<sup>6</sup>)

### (4) 「振り込め詐欺」に代わる新たな名称を募集していた警視庁は 12 日、東京都中央区の歌舞伎座で開いたイベントで、応募のあった約 1 万 4 千点から最優秀作品として「母さん助けて詐欺」を選んだと発表した。

(『日本経済新聞』(電子版)2013年5月12日<sup>7</sup>)

### (5) <足をぶつけたことについて>

でも、その時点ではまだ「あー、痛かった」程度に思っていたんだけど。ぶつけたのが午前中で、昼休みに外に出ようとパンプス履いたときに、そうとうぶつけてたことが判明。  
(ブログ『みむめも日記』<sup>8</sup>)

<sup>3</sup> 連体修飾節の内部に生起できない形式としては、動詞の命令形(？「[今すぐやれ]仕事」、動詞の意志形(？「[明日やろう]宿題」、動詞のテ形(？「[買って]お菓子」、終助詞(？「[走っているね]犬」、助動詞「だ」の終止形(？「[私の上司だ]佐藤さん」、形容動詞の終止形(？「[私が好きだ]人」、説明のモダリティ形式「のだ」(？「昨日買ったんだ」本)、感動詞(？「[あつ、走っている]犬」などが挙げられる。

<sup>4</sup> <http://www.pref.tottori.lg.jp/118090.htm>(2018年2月9日閲覧)

<sup>5</sup> 20代後半の女性キャスターが読み上げたニュースである。ニュース映像では「オリロコール」というひとまとまりの音調で読まれている(傍点は高く読まれる箇所)。

<sup>6</sup> <http://macoto1127.blog45.fc2.com/blog-date-201308.html>(2017年11月3日閲覧)

<sup>7</sup> [https://www.nikkei.com/article/DGXNASFK12008\\_S3A510C1000000/](https://www.nikkei.com/article/DGXNASFK12008_S3A510C1000000/)(2018年7月3日閲覧)

<sup>8</sup> <http://shoudayo.blog3.fc2.com/blog-date-200806.html?list>(2019年9月13日閲覧)

上の例(1)～(5)は、いずれも文の内部に、動詞の意志形(「がんばろう」)、動詞の命令形(「降りろ」、「振り込め」)、終助詞(「ビックリするぞ」)、動詞のテ形(「助けて」)、感動詞(「あー」といった形式が含まれている。これらの形式は連体修飾節内部には生起しないため、上記の用例はすべて「語が文を包摂する形式」であると判断できる。

第二に、上記の例(1)～(5)とは異なり、文の内部に動詞の命令形や意志形といった連体修飾の形成規則に反する形式が見られない場合でも、「語が文を包摂する形式」であると判断できるタイプがある(例(6)～(8))。通常、「発言」「メール」のような言語活動に関する名詞は、発話や文章を引用した節によって修飾される場合、引用形式「という」などを介する必要がある(日本語記述文法研究会 2008)。しかし、以下の例(6)～(8)では、引用形式を介さずに引用された文が直接名詞に先行している。この場合も従来の文法規則に反している点で、「語が文を包摂する形式」であると判断できる用例である。

(6) <長期にわたる検査を行ったが、最終的に病名がわからなかったことについて>

……と言うか、限界だった私が「もう帰る」宣言をしたため、とりあえずその状態で退院許可が何とか下りたと言うか(苦笑)

(ブログ『ちょっと難病になってみました 2 - 難しい病気と書いて難病と言う-』<sup>9</sup>)

(7) <待ち合わせの時間よりも早く到着した友人からのメールについて>

5時30分開場なのに、2時間前の3時半に待ち合わせした。のに、地下鉄の八事辺りの時、「もう着いた」メールが。早い。(ブログ『だって猫だもん』<sup>10</sup>)

(8) <「まだまだ寒い」とブログに書いた直後、気候が暖かくなったことについて>

ブログにて「まだまだ寒い」発言をしたばかりですが、急に半袖で外出できるくらい暖かくなったので、嬉しかったです。(ブログ『Meet the Caruso's』<sup>11</sup>)

上の例(6)～(8)では、それぞれ「宣言」「メール」「発言」という言語活動に関する名詞が、引用形式を介さずに、発話や文章を表す文に直接後続している。本来は「という」などを介する必要があるが、その規則を逸脱している点で通常の連体修飾構造ではなく、「語が文を包摂する形式」であると判断できる。

第三のタイプは、上記の2つのタイプにもあてはまらないものである。例えば、以下の例(9)のように、連体修飾節の内部に生起できない形式が見られず、かつ、「状態」のように「という」を介さずに内容節をとれる名詞が後続するタイプである。

(9) <情報セキュリティ関連のシステムについてのコラム>

困った…。今日もどこかでため息が聞こえます。システム運用をしていると「困った」状態になることがあります。(『CTC システムマネジメント株式会社』公式ホームページ<sup>12</sup>)

ただし、上の例(9)のようなタイプは、「語が文を包摂する形式」と「通常の連体修飾構造」のどちらの形式であるのか、書かれたテキストからだけでは判断するのが難しい。この第三のタイプは、第

<sup>9</sup> <https://ncode.syosetu.com/n6584es/1/> (2019年9月13日閲覧)

<sup>10</sup> <https://blog.goo.ne.jp/syu5537/m/201608> (2019年9月13日閲覧)

<sup>11</sup> <http://haramegu.blog17.fc2.com/blog-entry-1249.html> (2019年9月13日閲覧)

<sup>12</sup> <http://ctcs.secure-link.jp/special/itsecurity/p0001.htm> (2019年9月13日閲覧)

一のタイプ(上の例(1)～(5))とは異なり、先行する文「困った」の中に連体修飾構造の形成規則に反する形式(動詞の命令形や意志形など)が含まれない。また、第二のタイプ(上の例(6)～(8))、すなわち、部要素が言語活動に関する名詞である場合とは異なり、後続する名詞(例(9)では「状態」)は「事態」「様相」を表す名詞である。そのため、「という」の介在が任意であり(日本語記述文法研究会 2008)、「という」が介在しなくとも通常の連体修飾構造と考えて何ら問題がない。しかし、仮に「困った」状態(例(9))の「困った」が発話を引用したものであるとすれば、その発話を表す文「困った」を前部要素とする「語が文を包摂する形式」であると判断することも可能である<sup>13</sup>。このように、第三のタイプは「通常の連体修飾構造」と「語が文を包摂する形式」の二通りの解釈が考えられ、書かれたテキストだけではその判断が難しい場合もある。

以上、「語が文を包摂する形式」と考えられる形式のタイプを3つ挙げたが、このうち、コーパスを用いて用例を収集するうえで、検索条件の指定が可能なもの(第一のタイプ)と、検索条件の指定ができないもの(第二のタイプおよび第三のタイプ)がある(4節で後述)。第一のタイプ、すなわち、連体修飾構造の形成規則に反する形式(例:動詞の命令形や意志形)が含まれている場合(例(1)～(5))は、コーパスの検索条件に「命令形」などのモダリティ形式を指定することができるため、用例を収集することが可能である。しかし、連体修飾構造の形成規則に反する形式が含まれない第二のタイプおよび第三のタイプ(例(6)～(9))は、「語が文を包摂する形式」であると判断できる形式をコーパスの検索条件に指定することができない。コーパスで検索するうえでこのような限界があることから、本稿では連体修飾構造の形成規則に反する形式が含まれているもの(例(1)～(5)のような形式)だけを検索の対象とする。なお、本稿では「語が文を包摂する形式」を後部要素が名詞であるものに限定し、接尾辞であるもの<sup>14</sup>については今後の課題として考察の対象とはしない。

### 3. 先行研究の検討

「語が文を包摂する形式」に関する先行研究を検討した結果、次の3つの問題点があることがわかった。すなわち、①当該の形式を形成する後部要素の名詞にはどのようなものがあるのかが明らかになっていないこと、②前部要素となる形式にはどのような文があるのかが明らかになっていないこと、③前部要素と後部要素の間に有機的な関係が見られるのかが明らかになっていないことの3点である。以下、順に詳細を述べる。

#### 問題点①：後部要素になる名詞にはどのようなものがあるのかが明らかになっていない

「語が文を包摂する形式」について扱った先行研究は管見の限り新屋(2014)のみである。ここでは、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて、文に直接後続する「状態」の用例を収集し、「やったね!!!」状態」「何だコリヤ??」状態」のような形式の文法的な構造および意味的な構造、表現効果について記述している。しかし、先行研究では「状態」の用法のみが取り上げられているが、実例を観察すると、「状態」以外にも種々の名詞(「発言」「程度」など)が文を包摂する用法を持つことがわかる。このように、「語が文を包摂する形式」を形成する後部要素の名詞に関して、先行研究で取り上げられている「状態」のほかにもどのようなものがあるのか、コーパスなどを用いた定量的な調査が行われておらず、その出現状況は明らかになっていないと言える。

<sup>13</sup> 音調的な観点から見ると、「語が文を包摂する形式」と「通常の連体修飾構造」では次のような違いが見られる。「困った」状態の場合、「語が文を包摂する形式」であるとすれば、「コマツタジョウタイ」(傍点は高く読まれる箇所)のようにひとまとまり的な音調で読まれるものと考えられる。一方、通常の連体修飾構造の場合は「コマツタジョウタイ」のように読まれる。しかし、書かれたテキストからは音調を確認することはできない。

<sup>14</sup> 「的」「風」「系」「式」「感」などを取り上げた接尾辞研究の中では、これらの接尾辞が文を前項とする派生語を形成することが記述されている(山下 2005、金田 2014 など)。

**問題点②：前部要素になる文にはどのようなものがあるのかが明らかになっていない**

新屋(2014)で取り上げられている用例はいずれもその前部要素が発話(内言を含む)を表す文である。しかし、実例を観察すると、必ずしも発話を表す文しか前部要素にならないというわけではなく、文の形式をとる「成句」<sup>15</sup>(「果報は寝て待て状態」など)および「タイトル」(「太陽にほえろ!状態」<sup>16</sup>など)もその前部要素となる場合が見られる。このように、前部要素となる形式の特徴については記述の余地があると考えられる。

**問題点③：前後の要素間に有機的な関係が見られるのかが明らかになっていない**

先行研究(新屋2014)では、文に「状態」が直接後続する形式について、後部要素「状態」に先行する文には制約がなく、自由に組み合わせることから、当該の形式が統語的に生成されていると述べられている。挙げられている実例を見ると、確かに種々の形式をとる文が「状態」に直接先行しており、その組み合わせは自由で統語的に生成されていると言えそうである。しかし、実例のうち、名詞「キャンペーン」が文に直接後続する形式(「ANA でハワイへ行こう!キャンペーン」、「幻のポケモンをもらおうキャンペーン」など)に着目すると、その前部要素の文は「意志」「勧誘」のモダリティを表し、「動詞の意志形」を述語とする文が多いという傾向が見られる。したがって、当該の形式を形成できる名詞であればすべて、種々の形式の文と自由に組み合わせることができるわけではないと推察される。このように、「状態」以外の名詞が後部要素となる場合、前部要素と後部要素の間に何らかの有機的な関係が見られるのかは明らかになっていない。

なお、本稿で研究の対象とする形式は、従来の文法規則を逸脱する例外的な言語形式であるため、規範的な書き言葉においては出現することがなく、議論の対象とされてこなかった。しかし、当該の形式はブログ、SNS などの口語体のテキストを見ると、その実例の数は少なくはない。上述の先行研究では、口語体のテキスト(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における「Yahoo!知恵袋」および「Yahoo!ブログ」、ウェブ上のテキスト)から得られた用例を提示しているものの、その用例は少数にとどまり、十分な量のデータに基づく検討は行われていない。当該の形式のデータを収集するうえでは、当該の形式が出現しやすいウェブ上のテキスト(ブログなど)のデータが収録されたコーパスを使用することが必要である。以上、先行研究および調査方法の検討をふまえて、本稿では、「語が文を包摂する形式」について、その全体像を明らかにするために、まずはその出現状況および形式的な特徴を記述する。その際、当該の形式が出現しやすいウェブ上のテキストデータが収録された大規模コーパスを用いて用例の収集を行う。

**4. 研究方法****4.1 コーパスの検索方法の検討**

当該の形式は、口語体のテキスト、特にブログなどのウェブ上のテキストに多く見られるため、そのようなテキストデータが収録された『国語研日本語ウェブコーパス』(検索系『梵天』)を使用する。このコーパスでは「品詞」や「活用形」などの条件を指定することで用例の検索が可能である。当該の形式のように「文」の直後に「名詞」が後続する形式を抽出するためには、「文」の直後に「名詞」

<sup>15</sup> 沖森他(2012)によると、「成句」とは「古くから多くの人に用いられてきた語句」のことであり、ことわざ(「出る杭は打たれる」「朱に交われれば赤くなる」など)、故事成語(「杞憂」「臥薪嘗胆」「背水の陣」など)、格言(「石の上にも三年」「沈黙は金」など)、名句(「国破れて山河在り」など)、名言(「余の辞書に不可能の文字はない」)などがあり、文の形式であっても語相当のものとして用いられると述べられている(pp.7-8)。

<sup>16</sup> 「太陽にほえろ!」はテレビドラマのタイトルである。

が来るという条件を指定できればよい。しかし、コーパスでは検索条件に「名詞」を指定することはできても、「文」という単位を指定する条件はないため、「文」を検索するための別の条件を設定しなければならない。

そこで、当該の形式の前部要素にはその文末に種々のモダリティ形式が現れる用例が多く見られることに着目し、そのようなモダリティ形式のうちのいくつかをコーパスの検索条件に指定することで、当該の形式の用例の抽出を試みる。例えば、コーパスの検索条件で、「動詞の命令形」の直後に「名詞」が後続するように指定すれば、「今すぐ辞める発言」などの用例を抽出することができる。なお、検索条件に指定するモダリティ形式は次の4つ、すなわち、(a) 動詞の命令形(「早く帰れオーラ」など)、(b) 動詞の意志推量形<sup>17</sup>(「幻のポケモンをもらおうキャンペーン」など)、(c) 断定の助動詞「だ」の終止形(「犯人はお前だ宣言」など)、(d) 終助詞「な」(「こんなもんだな程度」など)である。これらの形式が文末に現れる文は、後続する名詞を直接修飾することできないため<sup>18</sup>、「通常の連体修飾構造」ではなく「語が文を包摂する形式」だと判断できる形式である。

(a) 動詞の命令形および(b) 動詞の意志推量形を選択したのは、筆者の観察の限り、「語が文を包摂する形式」の前部要素の文の述語には「命令形」「意志推量形」の用例が多く見られたためである。(c) 断定の助動詞「だ」の終止形を選定した理由は、この形式をコーパスの検索条件に指定することで、「名詞+だ」という形式の名詞述語文(「これは夢だ」状態)など、形容動詞の終止形で終了する形容詞述語文(「どうせダメだ」発言)など、モダリティ形式「のだ」で終了する文(「どうしたらいいんだ」状態)などの種々の形式の文を抽出できるからである。(d) 終助詞「な」を選定する理由は、筆者が行った予備的な調査(泉 2018)において、「語が文を包摂する形式」の前部要素の文末に現れる終助詞のうち、終助詞「な」の用例が最も多く見られたからである。

#### 4.2 コーパスの検索の手順

調査では、『国語研日本語ウェブコーパス』(検索系『梵天』)を用いる。また、「品詞列検索」を用いて、検索条件を以下の表1のように指定する。

表1 コーパスにおける検索条件

文末形式	検索条件		
	ボックス1	ボックス2	ボックス3
(a) 命令形	<品詞1>「動詞」/ <活用形1>「命令形」	<語彙素> 「」	<品詞1>
(b) 意志形	<品詞1>「動詞」/ <活用形1>「意志推量形」		「名詞」/ <
(c) 助動詞「だ」終止形	<活用形1>「終止形」/ <語彙素>「だ」		品詞2>
(d) 終助詞「な」	<語彙素>「な」		「普通名詞」

上記の表1のように、まず、「ボックス1」では各文末形式の条件を指定するほか、「ボックス2」「ボックス3」では次のような検索条件を加える。実例を観察すると当該の形式の前部要素の文は鉤括弧に囲まれている場合が多いため、「ボックス2」では文末のモダリティ形式と後部要素となる名詞の間に鉤括弧閉(「」)を介するように条件を指定する。「ボックス3」では、後部要素となる名詞が「普通名詞」になるよう指定する。このような検索条件で検索した結果、得られた用例は動詞の

<sup>17</sup> コーパスの検索条件として指定できる「活用形」の1つである。「読もう」「食べよう」のような動詞の意志形および「だろう」「でしょう」のような推量の形が検索可能である。

<sup>18</sup> 次のような例が挙げられる。「\*作れケーキ(命令形)」「\*鈴木さんにあげようケーキ(意志推量形)」(大島(2003) p.92 例(8e)より引用)、「\*私の上司だ佐藤さん」「\*買ってほしいな本」(作例)

命令形が 24,817 件、動詞の意志推量形が 11,135 件、助動詞「だ」の終止形が 15,641 件、終助詞「な」が 17,920 件であった。

用例はコーパス管理ツール『茶器』を用いて集計を行うため、「CaboCha 形式」でダウンロードを行うが、「CaboCha 形式」は 1 万件以上の用例をダウンロードすることができない。そこで、「普通名詞」の下位分類である「サ変可能」「サ変形状詞可能」「一般」「形状詞可能」「助数詞可能」「副詞可能」の 6 種に分け、それぞれの分類を条件に指定して得られたデータを「CaboCha 形式」でダウンロードする。ただし、上記の 6 種の下位分類に分けて検索を行っても 1 万件以上の用例がある場合、ダウンロードできる最大の用例数は 1 万件となる。

ダウンロードした「CaboCha 形式」のファイルを『茶器』に取り込み、「SQLite コーパス」を作成する。その後、「Tag 検索」で、それぞれの文末のモダリティ形式ごとに検索を行い(条件には「命令形」「意志推量形」「だ」「な」のそれぞれを指定)、得られたデータを Excel ファイルにエクスポートして集計を行った。そこから分析の対象外となる形式や重複する用例を目視で確認し、除外する作業を行った。なお、最終的に得られた用例数は巻末の付録(表 3～表 6)に示す。

## 5. 考察

収集した実例をふまえ、先行研究の問題点①～③に沿って考察を述べる。すなわち①後部要素の特徴、②前部要素の特徴、③前部要素と後部要素との関係という観点から考察を行う。

### 5.1 後部要素の特徴

「語が文を包摂する形式」を形成する後部要素の名詞には出現傾向が見られる。次の表 2 は、後部要素の名詞をその意味的な特徴ごとに分類したものである。

表 2 後部要素の名詞のタイプ

後部要素の分類	後部要素の名詞の一例
活動	キャンペーン、運動、イベント、プロジェクト、コーナー、デモ、遊び、ゲーム、企画
言語	コール、発言、メール、メッセージ、宣言、コメント、表示
様相	状態、オーラ、ポーズ
程度性	程度、レベル
手法・方式	モード、方式、作戦、戦法
精神・理念	主義、理論、精神
類型	タイプ、モデル、バージョン、リスト、パターン、コース
他者への行為	指令、命令、攻撃、アピール、ハラスメント

当該の形式を形成する名詞は、具体的な事物を表す名詞ではなく、抽象的な概念を表す名詞であるという特徴が見られる。特に用例数が多く見られたのは、「活動」に関する名詞(「カンボジアに学校を建てよう」プロジェクト)「選挙へ行こう」運動)などや、「言語」に関する名詞(「休みたければ辞めろ」発言)「迎えに來い」メール)などである。次いで、「様相」に関する名詞(「話しかけないでください」オーラ)など、「程度性」に関する名詞(「気をつけなきゃな」程度)などの用例が多く見られた。このように、当該の形式は先行研究で取り上げられていた名詞「状態」のみならず、種々の名詞が後部要素となる実例が観察される。ただし、複合名詞の後項となる名詞であれば、必ずしもすべて当該の形式を形成できるとは限らず、次のような傾向が見られる。

#### ①造語力の高い名詞ほど当該の形式を形成しやすい



文を包摂する形式の後部要素となる名詞は、その名詞の類義語と比して、種々の複合名詞を形成する後項名詞として用いられやすいものである。例えば、文を包摂する用法を持つ「状態」という名詞は、「健康状態」「昏睡状態」のような辞書に用例として挙げられている複合語のほか、「おひとりさま状態」「順番待ち状態」「一見さんお断り状態」(新屋 2014:336)といった臨時的な複合語を形成しやすく、造語力が高いと言える。一方、「状態」の類義語である「状況」「事態」といった名詞は、文を包摂する形式となる実例は見られない。「状況」「事態」も複合名詞の後項となる用法(「進捗状況」「緊急事態」など)があるものの、「状態」と比較すると前接する前項語基の種類は少なく、造語力はそれほど高くない。このように、当該の形式を形成しやすい後部要素の名詞の特徴はその造語力の高さと相関しているのではないかと考えられる。

## ②和語よりも漢語・外来語のほうが当該の形式を形成しやすい

当該の形式を形成する後部要素の名詞には語種の偏りが見られ、漢語が最も多く、次いで外来語が多く、和語に関してはほとんど見られない。なお、50件以上の実例が観察された和語名詞は「遊び」のみ(ただし、その用例は「「取って来い」遊び」「「持ってこい」遊び」<sup>19</sup>の2種類のみ)である<sup>20</sup>。当該の形式において漢語名詞が多く見られるのは、漢語はその造語力・生産性が高く<sup>21</sup>、他の語種よりも造語成分になりやすいという語形成の傾向とも合致する。和語があまり見られないのは、当該の形式を形成する後部要素の名詞が「抽象的な概念を表す名詞」であるということに関係していると考えられる。すなわち、和語は「抽象的な語が少なく具体的な個物や事象を表す語が豊富」(玉村 2002:79)であり、抽象的な概念を表す名詞が少ないために当該の形式の後部要素となりにくいのだと考えられる。

## 5.2 前部要素の特徴

収集した実例を観察すると、語が文を包摂する形式の前部要素の文の形式には3つのタイプが見られる。すなわち、「発話」(「「今すぐ辞めろ」発言」など)、「成句」(「「善は急げ」作戦」など)、「タイトル」(「「太陽にほえろ！」状態」など)である。第一に、前部要素が「発話」の形式である場合であるが、収集された大半の実例はこのタイプである。基本的に、心情や印象が述べられた文(内言)が前部要素となる場合が多いが(「「へえ、こんなものがあるんだ」程度」など)、実際に発言された内容が引用されて前部要素に取り込まれる場合も一部見られる(「「今すぐ辞めろ」発言」など)。当該の形式を形成する後部要素は基本的に抽象的な概念(活動、言語、様相、程度性、手法・方式など)を表す名詞であり、何らかの規定成分を伴わなければ、その内実が具体的に定まらないものである。その抽象的な概念について、仮にその内容を言語化した場合に言い表される発話が前部要素に提示される。このように、前部要素が発話の形式であることによって、聞き手にはその発話が用いられるような個別の場面・状況が喚起され、当該の概念の内実が具体的に想起される(例(10))。

- (10) ソヌヒョンが韓国に戻ってくる飛行機内で「お医者様はいらっしゃいませんか?」状態が発生し、  
電動工具で飛行機内緊急オペ、、、 (新屋 2014:340(15))

<sup>19</sup> 文脈から判断すると、飼い主がフリスビーやおもちゃを遠くへ投げ、飼い犬に取って来させるような遊びのことを指すと考えられる。

<sup>20</sup> 「遊び」は「言葉遊び」「雪遊び」「ボール遊び」「人形遊び」「砂遊び」「泥遊び」「水遊び」のように種々の複合名詞を形成することができ、和語名詞の中でも造語力が比較的高い名詞であると考えられる。

<sup>21</sup> 漢語は「基本単位の拍が短く、微妙な概念を明確に表すものが多いこと、またその基本単位の組み合わせ手続きが簡単で自由な結合をゆるすことによって、他の和語・外来語の及ばない造語力・生産性を発揮する」(玉村 2002:85)

例(10)の「お医者様はいらっしゃいませんか？」状態は、「飛行機内で救急患者が出て、客室乗務員が乗客の中から医師を探すアナウンスが流れるような状態」を表す。このように、読み手が書き手と同じ言語文化を共有していれば、前部要素の発話によって当該の場面・状況が喚起されつつ、後部要素の抽象的な概念が具体的に表現される。

第二に、文の形式をとる「成句」が前部要素になる場合である。特に後部要素が「作戦」「方式」「精神」のように手法や方針、心持ちを表すような名詞の場合に当該の形式が形成されやすい（「善は急げ」作戦、「郷に入っては郷に従え」方式、「習うより慣れよ」精神など）。特に「ことわざ」は古くから生活の体験に基づき言われてきた教訓を表すものであるため、手法や方針を表す名詞と共起しやすいのだと考えられる。また、「作戦」「方式」などの名詞は、語や句の形式をとる成句を前項とする臨時的な複合語を形成する用法（「一石二鳥」方式、「漁夫の利」作戦など）があり、その用法に基づく類推の結果、前項が文の形をとる「成句」の形式に拡大したのではないかと考えられる。

第三に、用例数は多くないが、文の形式をとる「タイトル」（ドラマ名など）が前部要素となる場合も一部見られる（「太陽にはえろ！」状態など）。文を包摂する形式の後部要素となりやすい名詞は、種々の語や句を前項として臨時的な複合語を形成する用法があり（「朝ドラ」状態、「ひよっこ」状態、「花子とアン」状態<sup>22</sup>など）、その用法から類推され、文の形式の「タイトル」を前部要素とする形式が生じたのではないかと考えられる。

### 5.3 前部要素と後部要素との関係

#### 5.3.1 前部要素の文末のモダリティ形式が選好する後部要素の名詞

収集した実例を観察すると、前部要素の文末にどのようなモダリティ形式が現れるかを問わず後部要素になり得る名詞（「発言」「状態」「程度」と特定のモダリティ形式にしか後続しない後部要素の名詞）が見られる。以下では、文末のモダリティ形式が動詞の命令形または意志推量形の場合に、後部要素として後続する名詞のうち、特徴的なものについて述べる。

##### ①命令形

前部要素のモダリティ形式が命令形の場合に後続する後部要素の名詞のうち、最も用例数が多く、かつ他のモダリティ形式には後続しないのが「コール」という名詞である。「コール」は語が文を包摂する形式の用例の中では、「通話」の意味を表す場合と「呼びかけ」の意味を表す場合が見られる。前者の「通話」の場合は主に「指示」「依頼」を表すような発話が前部要素となり（「戻って来い」コール、「迎えに来てくれ」コールなど）、後者の「呼びかけ」を表す場合は主に「声援」「応援」を表すような発話（「かっ飛ばせ」コールなど）や、「非難」「野次」を表すような発話（「辞めろ」コールなど）が前部要素となる。このように、応援や非難はいずれも発信者側からの強い感情を伴う呼びかけであり、（大勢の人たちによる）大きな声での掛け声を表す「コール」という名詞と共起しやすいと言える。また、「コール」のほかには、命令形で終了する文にしか後続しない名詞として「命令」「指令」といった名詞がある（「帰って来い」命令、「買って来い」指令など）。「命令」「指令」といった名詞はそれ自体が他者に何らかの行動をとるように言いつけるという語彙的な意味を持っているため、命令形によって命令や指示を表す前部要素の文となじむのだと考えられる。

<sup>22</sup> 「朝ドラ」とは「NHK 連続テレビ小説」の通称で、毎日朝の時間帯に放送されているテレビドラマである。「ひよっこ」「花子とアン」はいずれも「朝ドラ」のタイトルである。

## ②意志推量形

前部要素の文末のモダリティ形式が意志推量形の場合に後続する後部要素の名詞のうち、最も用例数が多いのは「キャンペーン」<sup>23</sup>である(773件)。「キャンペーン」は何らかの行為を人々に呼びかける宣伝・啓蒙活動を指すため、文末の意志推量形によって「勧誘」を表す文と共起しやすい(「イオンカードセレクトで得しちゃおうキャンペーン」、「幻のポケモンたちをもらおうキャンペーン」など)。特に企業が実施するキャンペーンの名称としてキャッチコピー的に用いられている用例が多い。そのほかには、「企画」「プロジェクト」「計画」「ツアー」といった名詞は意志推量形を文末のモダリティ形式とする前部要素にのみ後続する(「お花を贈ろう企画」「カンボジアに学校を建てようプロジェクト」「台湾へ行こう計画」「そらジローに会いに行こうツアー」など)。いずれの前部要素も意志推量形によって発話者の意志・勧誘を表す文であるため、「企画」「プロジェクト」「計画」「ツアー」などの意志性や計画性を伴う名詞となじむのだと考えられる。なお、「キャンペーン」や「プロジェクト」は企業などの組織におけるキャッチコピーや活動名に用いられる場合が多いが、「企画」「計画」「ツアー」は個人的な予定・イベントに対する名づけとして用いられる場合も見られる。

### 5.3.2 当該の形式の意味構造

当該の形式は後部要素の名詞で表される抽象的な概念が、前部要素の文で表される発話によってその内実が具体化されるという意味関係にある。一般的に複合名詞の多くは、要素間が等位的な関係にあるもの(「大中小」「松竹梅」など)を除き、「問題発言」(問題のある発言)、「緊張状態」(緊張した状態)のように、前項によって後項が特徴づけられる「種差+類概念」(「限定成分+主要成分」)(石井 2007)という構造をとる。当該の形式も前部要素の発話形式によって後部要素の抽象的な概念が特徴づけられ、具体化されるという点では、前部要素を「種差」、後部要素を「類概念」とする複合名詞の構造を形成しているととらえられる。以下の例(11)では、後部要素の名詞で表される抽象概念の内実が、発話の形式で前部要素に提示されている。

- (11) <自身のブログの記事について> 私もしっかりと勉強してこの記事を書いてるわけじゃありませんから、「そんなこともあるんだ」程度に聞いておいてほしいんですけど…。(ブログ『専務取締役杜氏の純米酒ブログ』<sup>24</sup>)

例(11)は、「そんなこともあるんだ」程度」の部分で、既存の形式で言い換えるとすれば、「参考程度」という表現も可能である。「参考程度」という形式であれば、前項「参考」が類概念を表す後項「程度」を限定する成分として機能し、「参考にする程度」という具体的な意味が表される。当該の形式も同様に、抽象的な概念である「程度」がどのくらいのものであるのかについて、「『そんなこともあるんだ』という発話で言い表せるくらいのものである」ということが前部要素の発話形式によって示されることになる。このように、「参考程度に話を聞く場面」における聞き手の印象を表すような文(「そんなこともあるんだ」「へー、そうなんだ」「ふーん、そうなのかあ」など)を前部要素とすることで、そのような発話がなされる状況・場面が喚起されつつ、抽象的な概念である「程度」がどのようなものであるのかが特徴づけられ、具体化される。

<sup>23</sup> 「キャンペーン」は、「ミッキーマウスを探せ」キャンペーンのように、文末のモダリティ形式が命令形の文に後続する用例もある。

<sup>24</sup> <http://sinanoturu.blog77.fc2.com/blog-date-201306.html> (2019年5月31日閲覧)

## 6. まとめと今後の課題

本稿では語が文を包摂する形式について、ウェブコーパスを用いて実例を収集し、その形式的な特徴の記述を行った。本稿で明らかになった形式的な特徴は以下の4点である。①当該の形式を形成する後部要素は、具体的な名詞ではなく、抽象的な概念(活動、言語、様相、程度性、手法など)を表す名詞であり、和語はほぼ見られず、複合語を形成する造語力が高い漢語または外来語が多い。②前部要素の文は主に心情や印象が述べられた発話の形式が多く、その発話形式は後部要素である抽象概念の内実を言語化したものである。③前部要素の文の意味と後部要素の名詞の意味的な特徴の関連の強さによって、前部要素の文末のモダリティ形式が選好する後部要素は異なる。具体的には、「コール」「命令」などは命令・非難を表す文と、「企画」「プロジェクト」などは意志・勧誘を表す文と意味的な関連の強い名詞であり、そのような名詞は特定の文末のモダリティ形式(命令形・意志推量形)とのみ共起する。④当該の形式は一般的な複合名詞の持つ意味構造と同様に、後部要素が「類概念」を表し、前部要素の発話形式がその類概念を特徴づける「種差」として機能するという前後の意味関係を持つ。

本稿では、語が文を包摂する形式について、その出現状況および形式的な特徴を記述するため、実例を形式によって分類したが、前部要素の文の意味・機能の観点からの考察も今後と必要である。例えば、前部要素の文に現れるモダリティ形式が「命令形」の場合、実際の用例の前部要素の文の意味・機能には「命令」以外に「応援」「頑張れ」など、「依頼」「買ってください」など、「挨拶」「おやすみなさい」などを表すものも含まれ、文の意味・機能によって後続する名詞の種類に違いが見られるのではないかと予想される<sup>25</sup>。今後はこのような観点も含め、さらに、当該の形式の意味・機能について分析を行っていく。

## 付録

表3 前部要素(動詞の命令形で終了する文)に後続する名詞の種類(用例数が50件以上見られたもの)

順位	名詞	度数	前部要素の一例
1	コール	722	「がんばれ」「帰ってこい」「帰れ」「出て行け」「辞めろ」「シュート打て」「金返せ」
2	発言	717	「戦ってください」「かかってこい」「早く座れ」「辞めろ」「空気読め」「黙れ」「ナチスに学べ」
3	状態	700	「ご自由に{お持ち帰り/お取り/お使い}ください」「しばらくお待ちください」「勘弁してくれ」「やめてくれ」「行って来い」「果報は寝て待て」「どうにでもなれ」
4	攻撃	361	「{ごはん/おやつ/エサ}くれ」「買ってくれ」「{遊び/旅行}に連れて行け」「食べる」
5	メール	300	「{教えて/助けて/譲って}ください」「(早く)帰って来い」「ごめんなさい」「頑張れ」
6	程度	226	「頑張れ/頑張ってください」「注意して{くれ/ください}」「気を付けて{ください}/気を付けろ」
7	オーラ	160	「話しかけないでください」「(早く)帰れ」
8	シリーズ	153	「ウォーリーをさがせ」「よいこになあれ」「宇宙へ飛び出せ」
9	精神	123	「やってみなはれ」「急がば回れ」「習うより慣れろ」「当たって砕けろ」「郷に入っては郷に従え」
10	キャンペーン	114	「{子どもたち/地球}を救え」「(キャラクター名)を探せ」
10	タイプ	114	「俺に{ついてこい/任せろ}」「習うより慣れろ」「果報は寝て待て」
12	アピール	111	「{エサ/おやつ/ごはん/めし}くれ」「{遊んで/買って}くれ」
13	遊び	107	「{取って/持って}来い」
14	指令	105	「{牛乳/餃子}買って来い」「(早く)帰って来い」
15	コーナー	102	「{もらって/教えて/譲って}ください」「ご自由に{お持ち帰り/お取り}ください」「{アト

<sup>25</sup> このほか、「意志推量形」の場合は「意志」「勧誘」「推量」といった意味・機能を表す文、終助詞「な」の場合は「禁止」「詠嘆」といった意味・機能を表す文が見られ、その文の意味・機能によって後部要素となる名詞の種類には違いがあると予想される。

			ム／仲間はずれ)を探せ」
16	レベル	96	「注意してください」「しばらくお待ちください」「ご遠慮ください」
17	運動	94	「{ウォール街／東京}を占拠せよ」「出て行け」
18	作戦	89	「押して(も)ダメなら引いてみる」「急がば回れ」
19	命令	85	「帰れ」「来い」「降りろ」
20	メッセージ	83	「頑張ってください」「しばらくお待ちください」
21	モード	81	「おやすみなさい」「勘弁してください」
22	ポーズ	80	「ごめんなさい」「くれくれ」
23	画面	78	「ログインしてください」「しばらくお待ちください」「パスワードを入力してください」
24	方式	76	「ご自由にお持ちください」「急がば回れ」「習うより慣れる」「損して得とれ」
25	宣言	68	「娘さんをください」「結婚してください」「付き合ってください」「ごめんなさい」
26	ゲーム	60	「待て」「{ミッキー／スパイ}を探せ」
26	表示	60	「しばらくお待ちください」「充電してください」
28	スレ <sup>26</sup>	58	「この本を読め」「作曲できる奴ちよつと来い」
29	コメント	56	「おかえりなさい」「食べてみてください」
30	イベント	54	「スティッチを探せ」「{娘さん／お嬢さん}をください」
31	連呼	53	「ごめんなさい」「出て行け」「帰れ」
32	デモ	51	「ウォール街を占拠せよ」「尖閣諸島を守れ」
合計		5,337	

表4 前部要素(動詞の意志推量形で終了する文)に後続する名詞の種類(用例数が50件以上見られたもの)

順位	名詞	度数	前部要素の一例
1	キャンペーン	773	「ミッフィーシールをあつめよう」「そうだ京都へいこう」「東北を応援しよう」
2	程度	372	「とりあえずがんばろう」「これでいいだろう」「気をつけよう」「様子をみましょう」
3	企画	295	「レビューを書いてプレゼントをもらおう」「サプライズで誕生日を祝おう」「お花を贈ろう」
4	発言	257	「飽きた、もう帰ろう」「結婚しよう」「どうしよう」「最後は金目でしょう」
5	プロジェクト	216	「手作りトートバッグで被災地を応援しよう」「カンボジアに学校を建てよう」
6	コーナー	188	「選手に聞いてみよう」「みんなで短歌・俳句を詠もう」「世界の国のあそびを楽しもう」
7	状態	184	「どうしよう」「こんなの無理だろ」「ま～何とかなるでしょう」「早くおうちに帰ろう」
8	イベント	167	「東北の酒をのんで応援しよう」「政治家と話そう」「本を読んで寄付をしよう」
9	作戦	161	「買い物は歩いていこう」「飛行機乗るまで寝ないでいこう」「数を撃てばそのうち当たるだろ」
10	運動	160	「東京にオリンピックを招致しよう」「元気に挨拶しましょう」「毎日豆乳でも飲もう」
11	計画	124	「お家を建てよう」「秋あたりに温泉に行こう」「今から東京行こう」
12	攻撃	119	「遊ぼう遊ぼう」「公園行こう」「早く帰ろう」
13	精神	100	「無いなら自分達で作ろう」「できることからはじめよう」「とりあえずやってみよう」
14	ツアー	96	「そうだ、京都へ行こう」「アンコールワットを見つけに行こう」「そらジローに会いにいこう」
15	講座	91	「コンピュータで音楽をつくらう」「親子でリースを作ろう」「世界遺産を学ぼう」
16	モード	77	「どうしよう」「帰りましょう」「みんなに任せよう」「遊ぼう」
17	レベル	75	「ま、こんなもんだらう」「これからがんばりましょう」「このまま様子見ましょう」

<sup>26</sup> 「スレ」とは「スレッド」の略称である。「スレッド」とは、ウェブ上の掲示板などにおいて、ある特定の話題に関する投稿がまとめられたもののことである。

18	メール	74	「デートしよう」「ごはん行きましょう」「一緒に帰ろう」
19	アピール	57	「俺カッコイイだろ」「早く帰ろう」「遊ぼう」「私って面白いでしょ」
合計		3,589	

表 5 前部要素(助動詞「だ」の終止形で終了する文)に後続する名詞の種類(用例数が 50 件以上見られたもの)

順位	名詞	度数	前部要素の一例
1	発言	550	「おまえのためだ」「謝罪すべきだ」「女は子を産む機械だ」
2	程度	513	「へえ、こんなものがあるんだ」「ああ、そういう人がいるんだ」
3	状態	234	「もういやだ」「俺はダメだ」「お前は何を言っているんだ」
4	宣言	73	「絶交だ」「俺がルールだ」「お前には無理だ」
5	エンド <sup>27</sup>	53	「俺達の戦いはこれからだ」
6	レベル	50	「そんなことあったんだー」「こりゃ、どー見ても本物だ」
合計		1,473	

表 6 前部要素(終助詞「な」で終了する文)に後続する名詞の種類(用例数が 50 件以上見られたもの)

順位	名詞	度数	前部要素の一例
1	程度	1,936	「あったらいいな」「ないよりマシかな」「あーそういうことあったなあ」
2	発言	371	「内政干渉するな」「勘違いするな」「金ないのに結婚するな」
3	状態	256	「お前が言うな」「なんだかなあ」「これでいいのかな」
4	レベル	151	「あったらいいな」「できたらいいな」「聞いたことがあるかなー」
5	オーラ	146	「近寄るな」「声をかけるな」「入ってくんな」
合計		2,860	

### 参考文献・関連 URL

- 石井正彦(2007)『現代日本語の複合語形成論』, ひつじ書房.
- 泉大輔(2018)「文が名詞に直接接続する構文の形式的特徴に関する考察」、『第 16 回日本語教育研究集会予稿集』, 日本語教育研究集会, pp.26-29.
- 大島資生(2003)「連体修飾の構造」北原保雄編『朝倉日本語講座 5 文法I』, 朝倉書店, pp.90-108.
- 沖森卓也編・木村一・鈴木功真・吉田光浩著(2012)『語と語彙』, 朝倉書店.
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』, ひつじ書房.
- 金田英里(2014)「接尾辞としての『一感』に接続する要素の拡大」『日本語教育論集』, 23, 姫路獨協大学大学院, pp.1-8.
- 『国語研日本語ウェブコーパス』<http://bonten.ninjal.ac.jp/>
- 新屋映子(2014)『日本語の名詞指向性の研究』, ひつじ書房.
- 玉村文郎(2002)『日本語語彙の研究』龍谷大学博士論文.
- 『茶器』 <http://sourceforge.jp/projects/chaki/>
- 林四郎(1982)「臨時一語の構造」『国語学』, 131, 国語学会, pp.5-26.
- 山下喜代(2005)「漢語と文体—漢語接尾辞を含む合成語と引用表現を中心にして—」中村明・野村雅昭・佐久間まゆみ・小宮千鶴子編『表現と文体』, pp.87-97.

<sup>27</sup> 「エンド」はここでは漫画やアニメ、ゲームなどのエンディングを表している。